

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：上勝町・かみかつ茅葺き学校

## 事業名称1：山の資源を活用した「かみかつ茅葺き学校」の実施

### あらすじ

【②地域課題：集落の形は残るが、昔の暮らしをする必要がなくなったことにより、山の荒廃、耕作放棄地の増加、伝統技術を伝承する人材の不足、生物多様性の低下】という課題があります。【③昔の暮らしに備わる、身近にある資源でモノをつくる、再生可能な資源で暮らす知恵や技術は、持続可能な社会づくりに求められる要素であり、上勝町のゼロ・ウェイストの考え方に通じる】ため、【⑥地域住民、地域コーディネーター】が「かみかつ茅葺き学校」を実施します。実施するサービスは、【④集落の伝統的技術で再生した「かやぶき民家」と伝統的な知恵・技術の持ち主】を使った、【⑤昔の暮らし体験プログラム、百姓プログラムの提供、棚田保全活動、茅葺き民家での豊かな時間の提供（貸館）】です。この事業を行うことで、地域に【⑦集落ファン・リピーターの増加、地域住民の移住者受け入れ意欲の向上、里地・里山風景の保全、山の生態系サービスの向上】が起こり、【⑧移住者受け入れの基盤整備、山の生態系サービス向上】につながり、【①集落の暮らしを伝える場ができ、そこに参加する仲間が集落の日常の仕事を支援し、里地・里山の小さな自然再生】につながります。また、体験プログラムや貸館を実施することによって得られる収益をもとに、集落維持のための活動拠点となる【⑦茅葺き学校が維持】され、さらにこれらの【⑩利益を地元へ一部還元】できることにつながります。

### ストーリー

かみかつ茅葺き学校は、山の資源を活用し、集落の伝統的な知恵、技術を持つ集落住民が講師となって、都市住民にプログラムを提供するものです。昔の暮らし体験プログラムや棚田保全活動で実施する、囲炉裏での火起こし、かまどごはんづくり、農業体験などは、都市住民に好評で、リピーターとなる確率が高いです。昔の暮らし体験プログラムのリピーターが、次は独自に施設を借りて、友人や家族たちと昔暮らし体験を楽しむ、という展開に期待しています。次に百姓プログラムは、これまでの匠プログラムが一つの仕事について技術を突き詰めることを目的としていたことに対して、本プログラムは年間を通しての集落の仕事に対して広く技術を学んでもらうことを目的とするプログラムです。様々な技術を取得し、ゆくゆくは集落を維持する人材または茅葺き学校の体験指導者を育成し、その中から移住を考えてくれる方がいればと期待しています。このように、昔の暮らし体験プログラムは、集落のファンづくり、口コミ利用者の種まき作業として、百姓プログラムは、様々な仕事を担える、固定的な集落支援者づくりとして進めていきます。かみかつ茅葺き学校では、活動を通して、山の資源を活用するとともに、体験プログラムと、仲間づくりによる集落等の維持管理、将来的には山の自然再生活動への展開を目指しています。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落の暮らし・伝統・文化を伝える場ができる</li> <li>地域住民が培ってきた技術を伝える場ができる</li> <li>集落の日常の仕事を支援する仲間ができる</li> <li>里地・里山（山、棚田、集落）の自然再生・保全ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山、棚田等、地域資源が民有地であり、保全するためには所有者の合意形成が必要</li> <li>昔の暮らしを知る人材（伝統的な知恵・技術の持ち主）の高齢化</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の暮らし（身近にある資源でモノをつくる、再生可能な資源で暮らす）をする必要がなくなったことにより、伝統・文化・技術が失われつつある</li> <li>地域の人口減少・高齢化により、集落環境を守る人材が不足</li> <li>山の荒廃、耕作放棄地の増加、生物多様性の低下</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の暮らしに備わる、身近にある資源でモノをつくる、再生可能な資源で暮らす知恵や技術は、持続可能な社会づくりに求められる要素であり、上勝町のゼロ・ウェイストの考え方に通じるため。</li> </ul>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落の伝統的技術で再生した「かやぶき民家・八重地花野邸」</li> <li>伝統的な知恵・技術の持ち主</li> <li>「にほんの里百選」に選ばれた里地・里山風景</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部の住民を対象とした、昔の暮らし体験プログラムの提供</li> <li>百姓プログラムの提供</li> <li>棚田保全活動（八重地応援隊）</li> <li>茅葺き民家での豊かな時間の提供（貸館）</li> </ul>	
⑥担い手（Who）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民</li> <li>地域コーディネーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像</li> </ul>
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>暮らし体験プログラム提供→山の資源活用=ゼロ・ウェイストな暮らし方の発信</li> <li>→集落ファン・リピーターの獲得→茅葺き学校維持のための収入確保→地元へ利益の一部還元</li> <li>百姓プログラム提供→様々な技術を伝承する人材育成・体験指導者の育成</li> <li>→地域住民のモチベーション向上→移住者受け入れ意欲の向上→移住者受け入れ準備の推進</li> <li>棚田保全活動→耕作地維持→棚田景観の維持=生態系サービス向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落リーダー</li> <li>他集落の技術・知恵の持ち主</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期的成果：集落ファン・リピーターの増加、技術を伝承する人材・体験指導者の増加</li> <li>長期的な成果：移住者受け入れ基盤の醸成、山の生態系サービス向上</li> </ul>	

**事業名称 2 : ゼロ・ウェイストタウン上勝でのパッケージプログラムづくり**

あらすじ

【②集落の暮らしの知恵や技術の見える化が不十分、集落とハブ拠点をコーディネートする機能が不十分】という課題があり、【③ゼロ・ウェイストのブランドを活用し、集落に人の流れをつくり、お金を落とすしくみをつくるため】、【⑥地域住民、地域コーディネーター、ハブ拠点の担い手】がゼロウェイスト上勝パッケージづくりを行います。これは、【④上勝ブランド、既存の町外訪問者の受け入れプログラム】を使った【⑤かやぶき民家・八重地花野邸における貸館の推進、随時受け入れられる体験プログラムの提供】です。

この事業を行うことで、【⑦集落内での体験プログラムニーズ増による関係人口増、上勝パッケージプログラムの実施による、発信力の向上と利用者増】が起こり、【⑧他主体による発信力強化、体験プログラム提供による収益増】となり、【集落の暮らしの価値が再認識され、集落の暮らしに賛同する人が集落を訪れる】ことが可能になります。

ストーリー

上勝パッケージづくりは、上勝町に既存の活動、施設、人材を活かし、そこに集まる人とお金を集落につなぐ取り組みです。例えば、上勝町の地域戦略の柱の一つである、「ゼロ・ウェイストブランドを活用した循環型まちづくり」に整合する、茅葺き学校の価値を明確にし、上勝町ゼロ・ウェイストセンター-WHY等と連携した体験プログラムが提供できます。これによって、いままでは集落まで来ることのなかった上勝来訪者層に、集落に来てもらうことが可能となります。茅葺き学校の目指す豊かな暮らしは、「身近にある資源でつくる、再生可能な資源でつくる暮らし、助け合う暮らし」であり、究極のゼロ・ウェイストの思考であると言えます。茅葺き学校では、このようにゼロ・ウェイストと連携した上勝パッケージづくりを進めると同時に、集落の受け入れ体制、周辺環境および施設の整備をすすめます。かやぶき民家・八重地花野邸は集落のシンボルとして整備をし、体験プログラム提供の場として活用します。将来的には、ゼロ・ウェイストをキーワードに集まる外国の訪問者に、日本の伝統的な暮らしの価値を伝えることができます。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落のゼロ・ウェイストな暮らしの価値が再認識される</li> <li>・集落のゼロ・ウェイストな暮らしに賛同する人が集落を訪れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落からの情報発信力の弱さ</li> <li>・かやぶき民家・八重地花野邸および周辺の環境整備・施設整備の費用</li> </ul>
②課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の暮らしの知恵や技術の見える化が不十分</li> <li>・集落とハブ拠点をコーディネートする機能が不十分</li> </ul>	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロ・ウェイストのブランドを活用し、集落に人の流れをつくり、お金を落とすしくみをつくるため</li> </ul>	
④地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上勝ブランド (ゼロ・ウェイスト)</li> <li>・既存の町外訪問者の受け入れプログラム (INOWプロジェクト、サステナブルツアー、スタディーツアー等)</li> <li>・ハブ拠点 (WHY、RISE)</li> </ul>	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かやぶき民家・八重地花野邸における貸館の推進</li> <li>・随時受け入れられる体験プログラムの提供 (自由に体験できるよう、囲炉裏の火起こし、かまどごはんの作り方など、動画を作成し利用者がスマホで見えるようにするなど)</li> </ul>	
⑥担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民</li> <li>・地域コーディネーター</li> <li>・ハブ拠点の担い手</li> </ul>	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸館の推進→集落内での体験プログラムニーズ増→関係人口増</li> <li>・上勝町内連携→上勝パッケージプログラムの実施→発信力の向上→利用者増→収益増→連携の加速化</li> <li>・体験プログラムの随時受け入れ→集落活性化→山の資源活用機会増→収益増→体験プログラムの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスパートナー</li> <li>・YouTuber (インフルエンサー)</li> </ul>
⑧事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的成果：他主体による発信力の向上</li> <li>・長期的成果：体験プログラムの提供増による収益増、収益による周辺の環境整備・施設整備実施</li> </ul>	

**事業名称 3 : ビジネスパートナーとの協働**

あらすじ

・【②集落の過疎高齢化により、集落内には収穫されないまま放置された農産物（主に柑橘）がある。茅葺き学校を維持するためにも集落内の経済活動のみでは限界がある。これまで主に集落の伝統・文化に関する体験プログラムを実施してきたが、新たな視点での体験プログラムが必要】という課題がある。これらの課題を解決するために、【⑤集落の農産物等の販売および茅葺きブランドの商品開発、環境学習プログラムの実施】を【⑥地域住民、地域コーディネーター、移住者、ビジネスパートナー】らが連携して行います。これらを実施することにより、【③里地・里山環境の維持・再生により、集落の魅力向上が図られ、茅葺き学校を持続するための経済活動が創出】されます。また、これまでの伝統・文化に興味を持つ集落ファンとは違うファン層が生まれることが期待されます。これらの事業を続けることにより最終的には、美しい里地・里山風景が保全され、茅葺き学校および集落に持続的に収益が生まれることにつながります。

ストーリー

ビジネスパートナーとの協働は、「集落内に放置された農産物を活用し外貨に代える」こと、「伝統・文化だけでなく集落内の豊かな生態系を活かした環境教育プログラムを造成し集客をする」ことを目指すものです。「農産物の物販」については、茅葺き学校での体験プログラム収入だけでは、収入面でも受け入れ体制の面でも限界があるため。ある程度外貨収入も見込む必要があります。また、購入されたお客様が上勝に興味を持ち茅葺き学校に来てくれるような仕掛けを考えることが重要になります。「環境学習プログラムの実施」については、主に生態系（植物、動物）に興味を持つ顧客層を獲得することが目的です。新たな集落の魅力を発掘・発信し、新たなファン層が獲得できることが期待されます。農地を放置することは集落景観の荒廃を招くことになり、また生態系にも悪影響を及ぼすことにつながるため、この事業を行うことにより、茅葺き学校および集落の収益につながるだけでなく、集落景観の維持、生態系の保全にもつながります。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありたい未来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美しい里地・里山風景の保全</li> <li>・茅葺き学校・集落に収益が生まれる仕組みが整備される</li> <li>・集落を環境学習の場として利用される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の合意形成、受け入れ体制が整備できていない</li> <li>・余剰農産物を収穫する人材</li> <li>・茅葺きブランドのブランディング手法</li> <li>・物販の仕組みづくり</li> <li>・環境学習のコンテンツ作り</li> </ul>
② 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の過疎高齢化により、集落内には収穫できずに放置された農産物がある</li> <li>・集落内のみでの経済活動には限界がある</li> <li>・新たな視点での体験プログラムが望まれる</li> </ul>	
③ なぜこの事業をやるのか (Why)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里地・里山環境の維持・再生により、集落の魅力が向上する</li> <li>・茅葺き学校・集落を持続するための、経済活動を創出する</li> </ul>	
④ 地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にほんの里100選の美しい集落</li> <li>・集落の農産物（柑橘、米、野菜など）</li> <li>・集落の豊かな生態系</li> </ul>	
⑤ 商品・サービスの具体的な内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の農産物等の販売および茅葺きブランドの商品開発</li> <li>・環境学習プログラムの実施</li> </ul>	
⑥ 担い手 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民 ・地域コーディネーター ・移住者 ・ビジネスパートナー</li> </ul>	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦ 事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の農産物等の販売および茅葺きブランドの商品開発→集落ファンの増加</li> <li>→集落に収益が生まれる→集落ファンが来る→茅葺き学校に収益が生まれる</li> <li>・環境学習プログラムの実施→集落ファンの増加→茅葺き学校に収益が生まれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落リーダー</li> <li>・地域住民</li> <li>・ビジネスパートナー</li> </ul>
⑧ 事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期的成果：集落ファンの増加</li> <li>・長期的成果：茅葺きブランド展開、里地・里山風景が持続的に保全される、茅葺き学校・集落に収益が生まれる</li> </ul>	